

ウォーカブル^{すいしんけいかく}推進計画

那加^{な か} from Park ^{こうそう}構想

株式会社^{かぶしきがいしゃ}OUR FAVORITE CAPITAL^{あわー ふえいぱりっと きゃびたる}

(第2回変更)
令和7年12月

ウォークアブル推進計画の目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	岐阜県	市町村名	かかみがはらし 各務原市	地区名	なか 那加 from Park 構想	面積	70.5	ha							
計画期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度	交付期間	令和	6	年度	～	令和	10	年度

目標

大目標：にぎわいや交流に溢れる那加地区の実現
 目標1：公園を中心とした安全で快適に歩ける歩行空間の創出による回遊性向上
 目標2：官民一体となった日常的なにぎわいや交流の生まれる空間の創出

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況
 各務原市では、「各務原市総合計画(2015～2024)」において、将来都市像に『笑顔があふれる元気なまち ～しあわせ実感 かかみがはら～』を掲げ、「便利で快適に暮らせるまち」を基本目標の1つにしている。これを受けて策定された「各務原市都市計画マスタープラン」(2016～2025)では、2本の鉄道の沿線に形成された市街地については、にぎわいゾーンとして、都市の顔としてふさわしい活気に満ちた便利で美しい拠点の形成を図るとされている。西の都市拠点と位置付けられている各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅周辺は、文化教育施設・行政施設・公園等が集積する地区であり、これらの既存施設を活用しつつ、若年世代から高齢者まで様々な世代が集まるにぎわい・交流の拠点の形成を目指している。
 「各務原市立地適正化計画(2022～2041)」においては、立地の適正化に関する基本的な方針として、都市拠点に位置付けられた各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅周辺は、市全域の市民が利用する広域的な都市機能や賑わい創出に資する機能の集積を図るとともに、公共空間を市民と協働して魅力的な空間にすることで、市全体の魅力やイメージを向上し、都市拠点におけるまちなか居住を促進するとされている。誘導施策としては、近年、公共施設や鉄道駅、教育施設、公園が立地し、民間主体のイベントが行われ、若い世代を中心に多くの市民の交流の場となっていることから、公園を中心としてエリア価値の向上に向けた官民連携による賑わいの創出を展開していくとされている。また、官民が連携したまちづくりを進めていくために、都市再生推進法人の設立に向けた支援等を行っていくこと、公的不動産の管理・活用の検討を行うこと、を挙げている。
 当地区は、西の都市拠点の中において、市街地でありながら大学跡地という歴史や環境を受け継ぎ、市民に親しまれる広大な緑地空間を有する2つの都市公園(市民公園・学びの森)があり、近年では官民連携イベント「マーケット日和」を始めとして、民間による交流拠点としての役割も果たしているカフェ「KAKAMIGAHARA STAND」の設置、Park-PFI制度による新たな賑わい拠点「KAKAMIGAHARA PARK BRIDGE」の整備、市民公園のリノベーション計画の策定など、新しいことが始まる場として認識されつつあり、公園周辺には人が集まり、賑わいが創出され始めている。
 このような動きの中で、当地区西部に位置する商店街においては、まちづくり会社「株式会社OUR FAVORITE CAPITAL」が令和3年2月に設立され、令和4年10月31日には都市再生推進法人として指定された。これまで、各務原市と連携を取りながら、移住相談、まちの魅力発信など、新たなまちの担い手や関係人口を創出する取り組みを行っており、今後も、まちの交流拠点の整備や、空き店舗の活用などに力をいれていく予定となっている。
 公園周辺で高まりつつある賑わい創出に向けた機運を逃すことなく地区全体に広げることで、当地区が抱えている、空き店舗の増加や来訪者が長時間快適に過ごせる場が少ないこと、市内の主要駅である各務原市役所前駅及び那加駅・新那加駅、文化教育施設(小中高大)・行政施設(市役所)・公園等といった施設・公共空間が集積しているにも関わらず回遊性が低いこと、といった課題に対して、各務原市都市計画マスタープラン及び各務原市立地適正化計画に基づき、公園や道路の活用について、都市再生推進法人やまちの担い手とともに取り組むことで、公共空間の魅力が周辺エリアに波及していく一体的なまちづくりを官民連携で取り組むことで、解決を図りたいと考えている。

課題

- ・公共交通軸を中心とした集約型都市構造に合わせた駅周辺の利便性向上や歩行者ネットワークの形成、回遊性を高める取組
- ・後継者不足や郊外型店舗の出店により商店街の空き店舗が増加
- ・都市公園等の空間資源を十分に活用できているとは言えず、より使いやすく居心地の良い空間とするために利用者ニーズを踏まえた質の高い空間づくり
- ・来訪者にゆっくりと交流・滞在を楽しんでもらえる憩いの空間の創出

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【車移動から徒歩移動へ。エリア内の歩行/自転車による回遊性の向上と賑わいの創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回遊性を高めるサインの整備 ・エリア内の滞在時間を延ばす ・出かける動機となる魅力的な目的地の創出とその情報発信 	<p>【基幹事業】エリア回遊性に関する社会実験 【基幹事業】案内板・サイン設置 【提案事業】WEBサイト構築・運営(那加地区WEBページの作成、取材、情報発信)</p>
<p>【魅力ある滞留空間・交流拠点の創出】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・憩い・待合い等のための滞留空間の整備 ・利便性向上のためのサービス機能集約 ・その他交流拠点にふさわしい新規機能導入(情報提供機能の充実等) 	<p>【基幹事業】まちなかハブセンター整備(旧公共施設(東亜町会館)及び旧文具店の再整備) 【基幹事業】空き店舗に関する社会実験 【基幹事業】コーディネートに関するイベント 【提案事業】空き家・空き店舗改修</p>
<p>【エリアの魅力を高める新規創業の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空き店舗の利活用 ・エリアの魅力になるような新規創業(店舗、事業)支援 ・都市公園も含めたエリアの一体的な快適性の創出 	<p>【基幹事業】空き店舗に関する社会実験 【基幹事業】 【関連事業】 【協定制度等】</p>
<p>その他</p>	
<p>【その他官民協働の取り組み事例】</p> <p>・AtoZ Project(令和4年スタート)</p> <p>那加地区にA からZ まで、26 個のコンテンツをつくる各務原市との協働事業。コンテンツ同士の関連性を見せることによって、まちの回遊性の向上を狙う。</p> <p>各拠点にはA~Z を頭文字として役割を与え(物件の外壁にアルファベットを印字、マップの制作等)、まちに必要な役割を提示することで、一つ一つのコンテンツのまちに対する存在意義を明確化する。</p> <p>旧精肉店をリノベーションし、令和4年12月にオープンしたOUR 食堂は、公園からその周辺に回遊するきっかけとなる拠点という意味を込めて「A=Around(周辺)」としている。</p> <p>A~Z すべての拠点が揃ったとき、本事業においては、まちに必要な役割が充足したと定義し事業の完結とする。</p>	

那加 from Park 構想(岐阜県各務原市)	面積 70.5ha (70.5ha)	ha	区域	各務原市那加太平町、新那加町、西野町、樂天地町、本町、吾妻町、日之出町、東那加町、元町、北栄町、栄町、門前町、南栄町、楠町、雲雀町、桜町
--------------------------	--------------------------	----	----	--



